医学部における２０２４（令和６）年度実績 教員個人評価の
集計・分析並びに自己点検評価報告

１．個人評価の実施経過

令和７年

２月　７日　令和年６度第２回医学部評価委員会
　　２０２４年度医学部個人評価の様式について審議・決定

３月　３日　医学部教員を対象に、２０２４年度実績個人評価の実施説明文（資料 1-2）を送付し、２０２４年度活動実績報告書（資料 1-5）、２０２４年度自己点検・評価書（資料 1-6）及び２０２５年度個人目標申告書（資料 1-7）の作成・提出を依頼

３月３１日　提出締め切り

１０月　２日　各講座グループ長へ、最終の活動実績報告書の確認依頼を実施

１２月　　２０２４年度実績教員個人評価結果を、各講座等長を経由し教員個人に通知予定

２．実施の概要

（１）実施対象：医学部全教員のうち、2024 年度に在籍していた医学科基礎系 41 人、臨床系 158 人、看護学科 25 人、地域医療科学教育研究センター9 人、再生医学研究センター3 人、中央診療部門 46 人の計 282 人

表１．職域、職種別の対象者人数と個人評価調査回答数
（地域医療科学教育研究センター、再生医学研究センターの教員は医学科基礎系に、
中央診療部門の教員は臨床系の職域区分に含める）

職域・職種		対象者数	調査回答数	回答率%
医学科基礎系	教授	16	16	100
	准教授・講師	15	15	100
	助教	22	22	100
臨床系	教授	24	24	100
	准教授・講師	58	58	100
	助教	122	122	100
看護学科	教授	7	7	100
	准教授・講師	11	11	100
	助教	7	7	100

（２）実施組織：医学部評価委員会（医学部長１、副医学部長３、病院長１、附属図書館副館長１、医学科教授２、看護学科教授１、事務部長１の計１０名）

（３）実施内容と方法

１）医学部の実施基準・指針

本学の「職員の個人評価に関する実施基準及び指針」に基づき、「佐賀大学医学部における職員の個人評価に関する実施基準」（資料 1-3）並びに「医学部における個人達成目標及び重み配分の指針（教員用）」（資料 1-4）を定め、これに準じて実施した。

なお、医学部の実施基準では、本学の実施基準に以下の点を加えていることが特徴といえる。

① 診療の評価領域。

② 各教員の「活動実績報告書」及び「自己点検・評価書」の提出、並びに「個人評価結果」の通知は講座等の長を経由して行う。
③ 講座等の長は職員の活動実績を各講座等においてとりまとめ、評価し、講座等の活動改善の資料とする。

2）各教員による活動実績報告書の作成と自己点検評価
教員は、各自の活動を「活動実績報告書」に取りまとめ、それと前年度に設定した活動目標と重み配分を基に自己点検評価を行った結果を「自己点検・評価書」に記述して提出した。

3）翌年度の活動目標と重み配分の設定
上記の実績の点検評価とは別に、各教員は翌年度の活動目標と重み配分を「個人目標申告書」に記入して提出した。

4）活動実績の集計と分析
医学部の職域が多様であり、また、その職種によっても求められる活動が異なることから、教員を① 医学科基礎系、② 臨床系、③ 看護学科の３つの職域に区分し、更に ⓐ 教授、ⓑ 准教授・講師、ⓒ 助教の職種ごとに分けて、活動実績の集計と分析・評価を行った。

5）「個人評価結果」の通知内容
当該教員の評価領域ごとの評価点を、該当する職域・職種別グループ教員の評価点とともにグラフで表し、当該教員の活動状況の位置付けを示す「個人評価表」（資料 1-9）と、当該教員の活動目標達成に関わる自己評価に対する評価委員会コメントを個人評価結果として通知する。

３．各評価領域における評価項目と活動実績の集計・分析

（１）教育の領域

１）評価項目と評価点：ここでは以下の項目について点検し、評点化を行った。

[1] 学部教育の実績： ①講義・実習・ＰＢＬ、②臨床実習、③選択コース・セミナーの区分で担当時間数を点数化し、教養教育科目や学生による授業評価の高いものには加算点を追加。

[2] 大学院教育の実績：①大学院授業の担当時間数、②研究指導した学生数、学位取得者の指導数、学位論文審査件数をそれぞれ評点化。

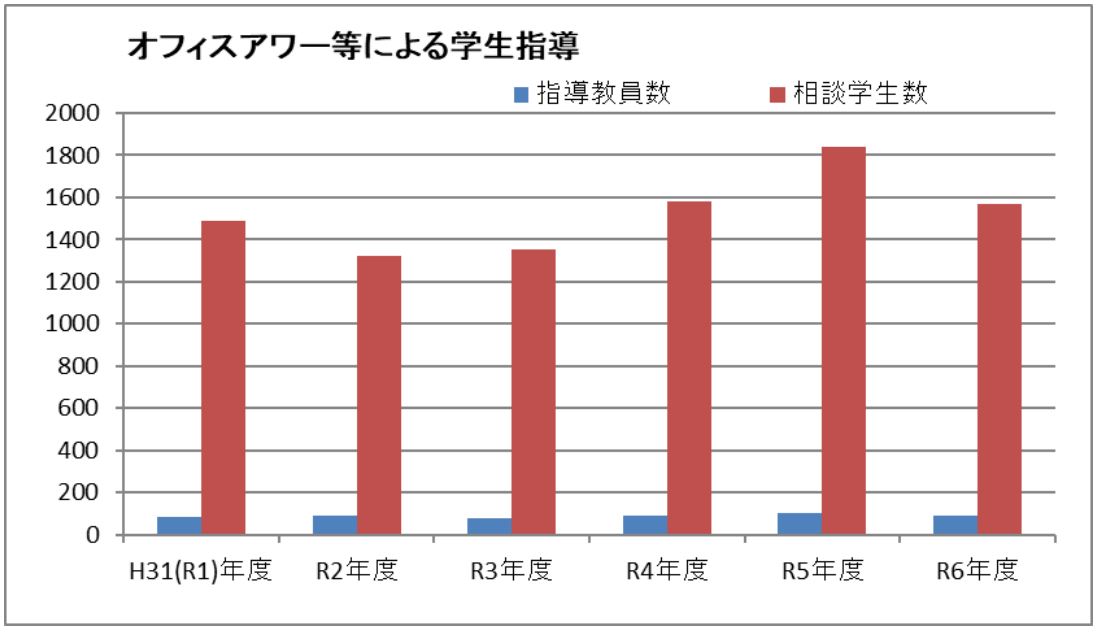
[3] 学内におけるその他の教育活動： 全学または全学部的な講演やオスキー評価者などの時間数を評点化。

[4] 学生への生活指導等： チューター、クラブ顧問、オフィスアワー等による指導実績の有無を評点化。

２）集計結果：上記評価項目の評点と、それらを合計した教育領域の評価点の職域・職種別平均値を表２に示す。

表２．教育の領域、評価項目の平均評価点

職域・職種 区分		教育領域	各評価項目の平均評点						
		平均評価点数	[1] ① 講義等	[1] ② 臨実習	[1] ③ 選択コ	[2] 院授業	[3] 院指導	[4] ① 他教育	[4] ② 学支援
基礎医学系科	教授	77.7	33.0	4.6	9.5	8.5	18.1	3.8	0.2
	准教授・講師	69.4	34.3	2.5	14.0	5.0	5.4	7.9	0.3
	助教	37.0	15.2	9.1	8.2	1.2	1.8	1.2	0.2
臨床医学系科	教授	56.9	5.4	29.7	1.4	0.8	14.0	5.5	0.1
	准教授・講師	36.7	5.0	20.2	3.6	0.6	3.6	3.7	0.0
	助教	38.9	4.2	26.9	0.6	0.8	1.6	4.7	0.0
看護学科	教授	304.2	209.3	32.9	2.0	35.7	21.1	2.9	0.3
	准教授・講師	276.1	198.5	36.4	5.5	18.7	16.7	0.0	0.3
	助教	255.2	214.0	39.7	0.0	0.0	0.7	0.5	0.3



３）教育領域全体の状況

○ 学部教育の実績評点は、凡そ 30 時間の講義担当時間数が 10 点に相当するもので、看護学科では、講義の担当が多く高点数となっている。

○ オフィスアワーによる学生指導数は令和３年度から令和５年度にかけて数が増加傾向であったが、令和６年度は数が減少している。指導教員数の減少に伴い、相談学生数も減少している。

（２）研究の領域

１）評価項目と評価点：ここでは以下の項目について点検し、評点化を行った。

[1] 著書、論文等の実績： 著書、論文等の発表数とインパクトファクターを点数化。

[2] 学会発表等の実績： 学会発表等の数を学会規模、一般発表、招待発表に分けて評点化。

[3] 学術等に関する受賞： 受賞の有無を評点化。

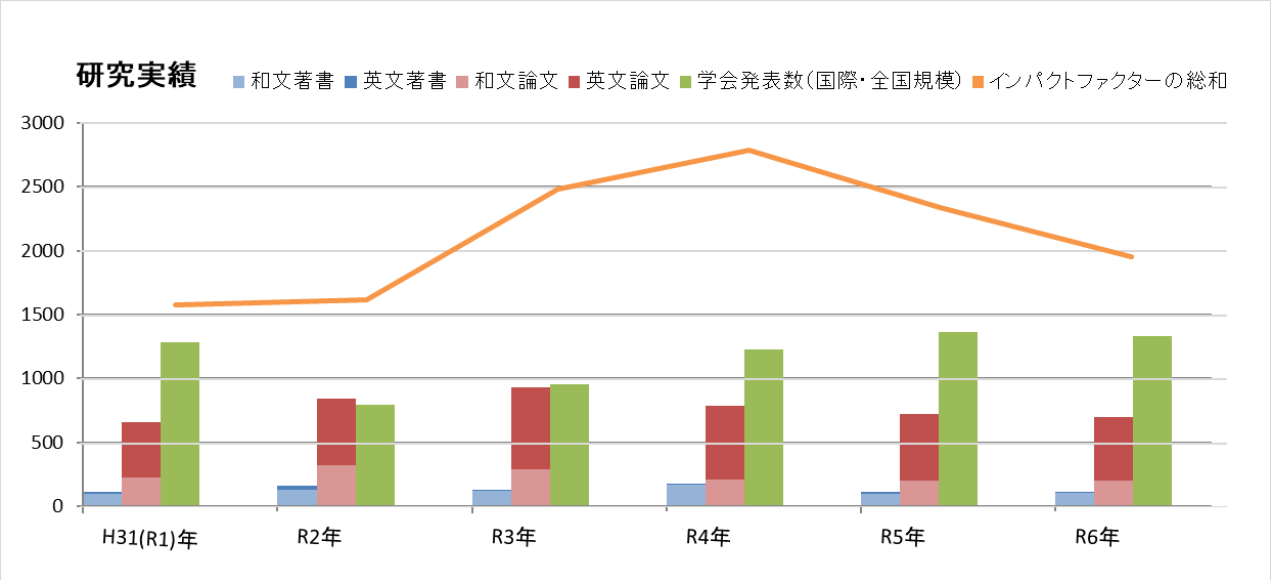
[4] 科学研究費等補助金の申請・獲得： 代表者としての申請実績と獲得実績を評点化。

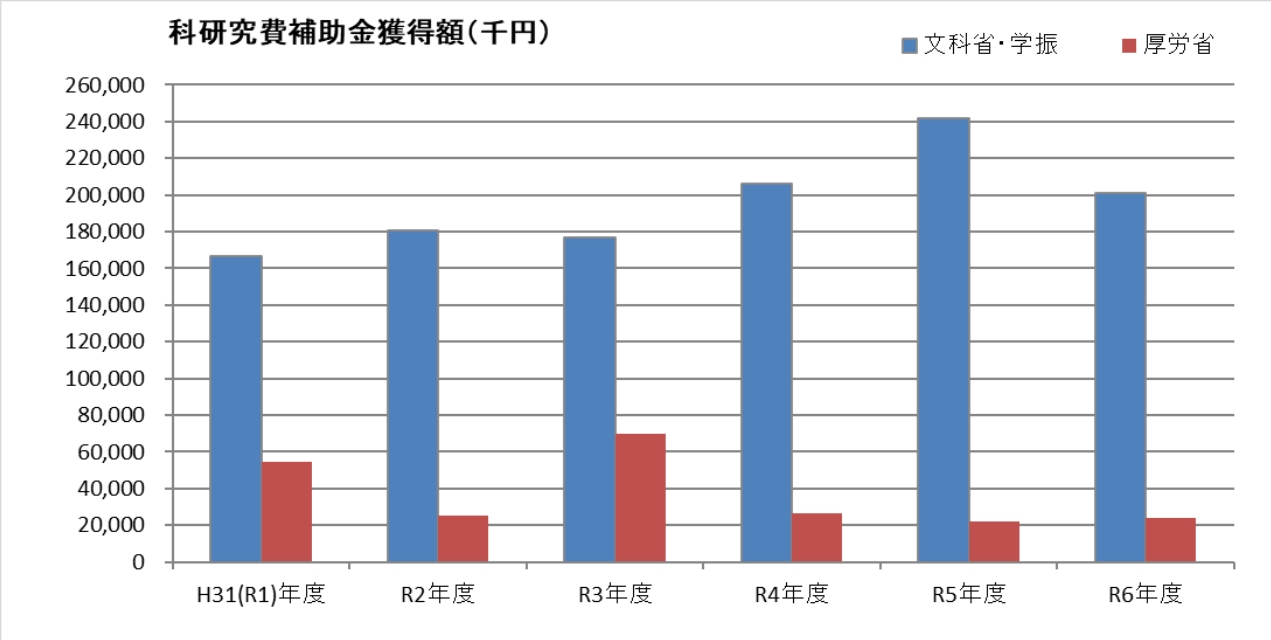
[5] 特許の取得状況： 取得の有無を評点化。

２）集計結果：上記評価項目の評点と、それらを合計した研究領域の評価点の職域・職種別平均値を表３に示す。

表３．研究の領域、評価項目の平均評価点

職域・職種 区分		研究領域	各評価項目の平均評点				
		平均評価点数	[1] 著書論文	[2] 学会発表	[3] 受賞	[4] 科研費	[5] 特許
医学科 基礎系	教授	69.5	26.9	1.7	0.0	36.3	4.7
	准教授・講師	114.4	61.8	3.9	2.0	46.7	0.0
	助教	44.7	8.6	1.5	0.9	33.6	0.0
臨床系	教授	236.5	171.4	11.2	1.3	50.6	2.1
	准教授・講師	93.7	65.8	6.5	0.7	20.3	0.4
	助教	23.1	13.4	3.0	0.6	6.7	0.2
看護学科	教授	68.7	15.0	3.0	1.4	49.3	0.0
	准教授・講師	29.5	13.0	1.1	0.0	15.5	0.0
	助教	36.1	11.6	1.0	0.0	23.6	0.0





3）研究領域全体の状況

○ 著書・論文数の研究業績を前年度と比較すると、著書数は変わらず、論文数は 23 件の減になっている。

○ インパクトファクターの総数は令和 4 年度より右肩下がりで減少している。

○ 学会発表件数は、前年度より国際規模の学会が 14 件の増、全国規模の学会が 48 件の減になっている。ほぼ横ばいに推移している。

○ 科学研究費補助金は前年度より 40,874,000 円の減であった。厚生労働科学研究費補助金は前年度より 1,857,000 円の増になっている。

（３）国際交流･社会貢献の領域

１）**評価項目と評価点**：ここでは以下の項目について点検し、評点化を行った。

[1] 国際交流に関する実績： 外国人研究者・留学生等の受入件数、公務による国際交流事業等の実績を点数化。（学会等の海外渡航は評点には加えない）

[2] 共同研究員の受入： 共同研究員の受入れ実績件数を評点化。

[3] 学外における教育活動： 公開講座、出前授業、講演、講習会、非常勤講師等の件数を評点化。

[4] 国・地方自治体の各種委員会・審議会委員など： 実績件数を評点化。

[5] 学会役員、学術雑誌の編集等： 学会雑誌の編集委員、学会理事、評議員等の実績件数を評点化。

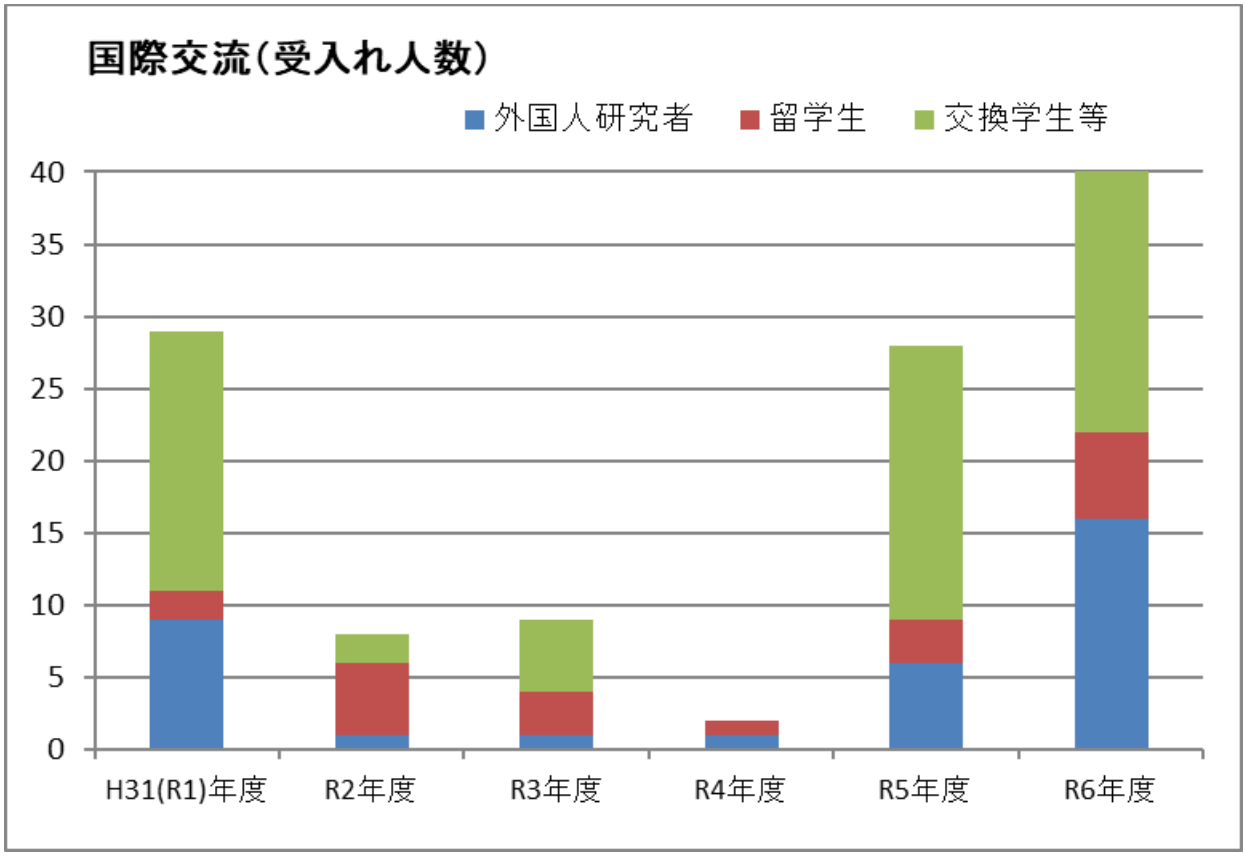
[6] 主催した学会：学会（全国規模、地方会規模）を主催した実績件数を評点化。

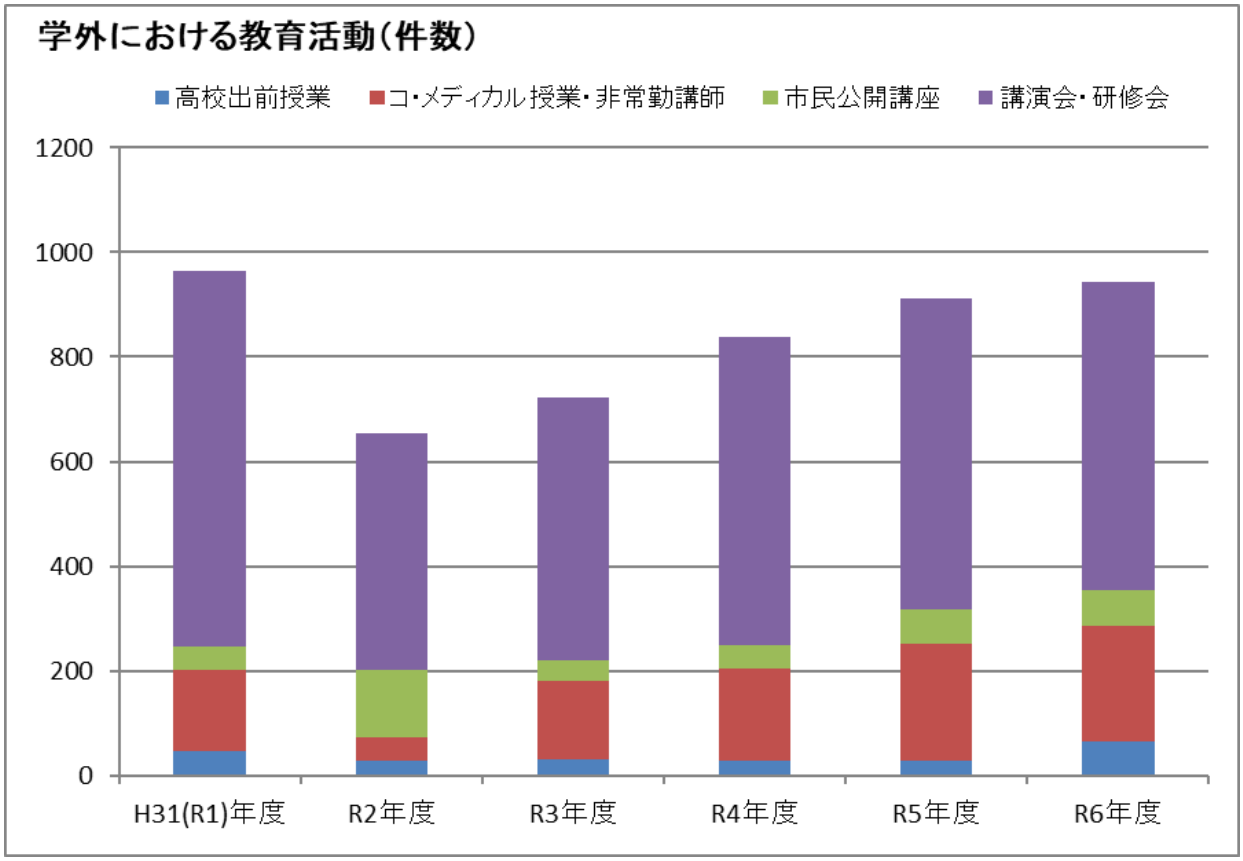
[7] 海外渡航の回数：実績件数を評点化。

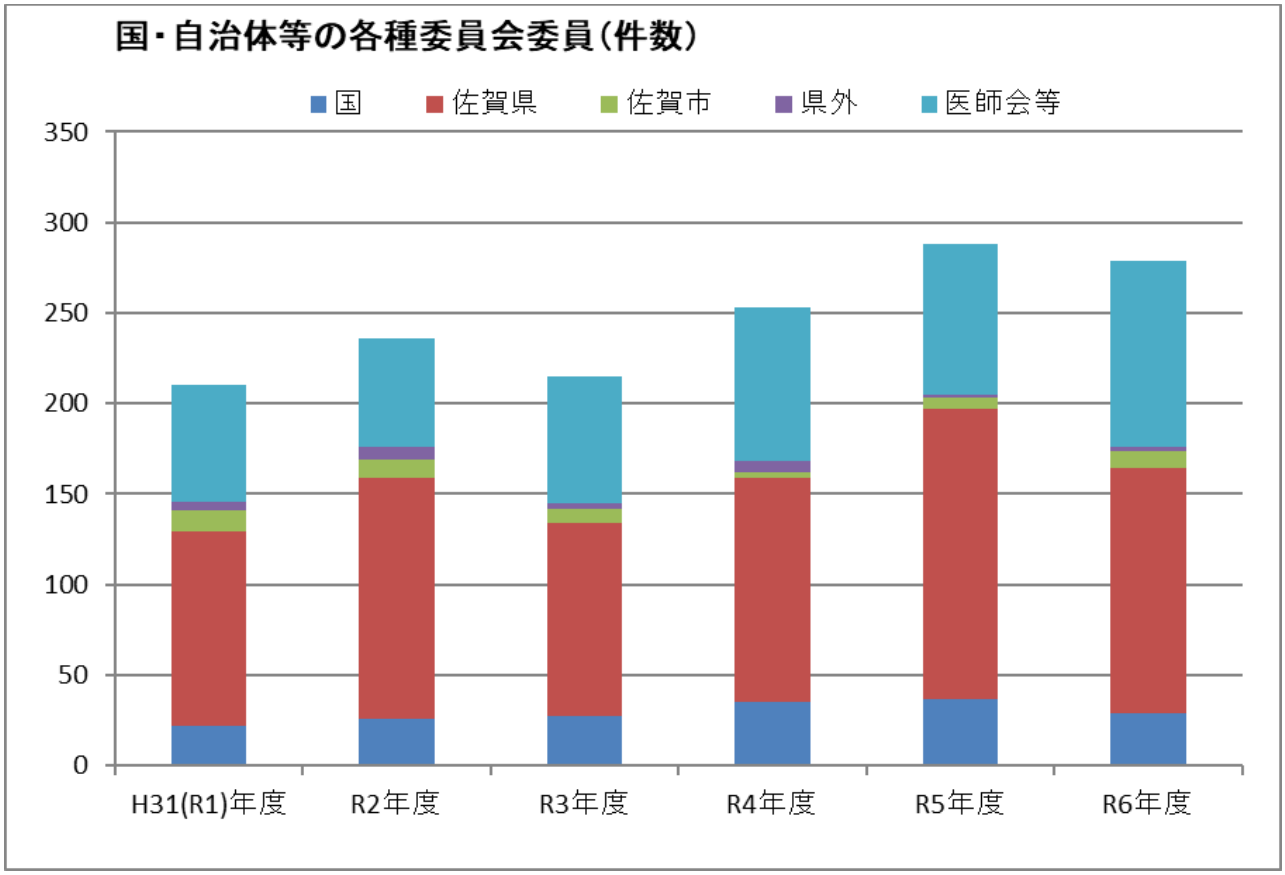
２）**集計結果**：上記評価項目の評点と、それらを合計した国際･社会貢献領域の評価点の職域・職種別平均値を表４に示す。

表４．国際･社会貢献の領域、評価項目の平均評価点

職域・職種 区分		国際･社会貢献領域	各評価項目の平均評点						
		平均評価点数	[1] 国際交流	[2] 共研員受入	[3] 学外教育	[4] 各種委員	[5] 学会委員	[6] 主催学会	[7] 海外渡航
基礎系 医学科	教授	25.7	0.4	7.8	1.1	4.8	4.3	0.3	7.0
	准教授・講師	18.8	1.0	1.7	0.7	1.7	2.2	0.0	11.4
	助教	6.6	0.0	1.1	0.6	0.1	0.3	0.0	4.4
臨床系 医学科	教授	61.3	1.1	3.1	2.8	15.3	14.1	2.0	23.0
	准教授・講師	16.5	0.2	1.3	1.6	3.1	3.4	0.3	6.6
	助教	4.7	0.1	0.0	0.7	0.7	0.4	0.0	2.8
看護学科	教授	40.8	0.0	21.4	0.8	12.7	3.1	0.0	2.7
	准教授・講師	4.9	0.0	0.0	1.2	2.4	0.8	0.0	0.5
	助教	10.1	0.0	7.1	0.9	1.3	0.2	0.0	0.6


国際交流（受入れ人数）
外国人研究者
留学生
交換学生等
40
35
30
25
20
15
10
5
0
H31(R1)年度
R2年度
R3年度
R4年度
R5年度
R6年度


学外における教育活動（件数）
高校出前授業
コ･メディカル授業･非常勤講師
市民公開講座
講演会･研修会
1200
1000
800
600
400
200
0
H31(R1)年度
R2年度
R3年度
R4年度
R5年度
R6年度



３）国際･社会貢献領域全体の状況

○ 国際交流では、ここ数年新型コロナの影響で国際交流の受入れ人数が減少していたが、令和５年度より受け入れ人数が増加し、令和６年度は過去５年の中でも最大の受け入れ人数となった。

○ 社会貢献では、共同研究・受託研究、学外における教育活動及び国・地方自治体等の各種委員会委員としての貢献が相当数あり、活発な社会貢献を行っている。

（4）組織運営の領域

1）評価項目と評価点：ここでは以下の項目について点検し、評点化を行った。

[1] 佐賀大学全学委員会、専門部会等における貢献： 委員長、委員としての件数を点数化。

[2] 学部、学科、附属病院の委員会、専門部会等における貢献
：委員長、委員としての件数を点数化。

[3] 教務関係の役職（フェーズ主任、教科主任 等）、組織・運営の役職： 実績件数を評点化。

2）集計結果：上記評価項目の評点と、それらを合計した組織運営領域の評価点の職域・職種別平均値を表５に示す。

表５．組織運営の領域、評価項目の平均評価点

職域・職種 区分		組織運営領域	各評価項目の平均評点		
		平均評価点数	[1] 全学委員等	[2] 学部等委員	[3] 教務関係
基礎系 医学科	教授	39.2	8.0	14.0	17.2
	准教授・講師	18.9	6.5	6.3	6.1
	助教	0.9	0.3	0.6	0.0
臨床系 医学科	教授	44.3	3.3	25.0	16.1
	准教授・講師	9.2	0.9	6.1	2.2
	助教	3.2	0.4	2.5	0.4
学科 看護	教授	59.4	4.6	26.0	28.9
	准教授・講師	17.4	1.9	7.9	7.6
	助教	5.9	0.0	5.9	0.0

3）組織運営領域全体の状況

○ 組織運営の領域では、職務上主に教授が各種委員を担当するため、評価点は教授に偏っている。また、看護学科は教員数の関係もあるが、教授以外の教員の負担が高くなっている。

（5）診療の領域

1）**評価項目と評価点**：ここでは以下の項目について点検し、評点化を行った。

[1] 附属病院内 診療活動： 総診療実働時間数を点数化。

[2] 病院運営の貢献： チーフレジデント、リスクマネージャー、 横断的診療班等としての実働時間及び高度先進医療の貢献件数を評点化。

[3] 専門医、指導医等の資格取得状況： 取得している資格、新たに取得または更新した資格の件数を評点化。

2）**集計結果**：上記評価項目の評点と、それらを合計した診療領域の評価点の職域・職種別平均値を表６に示す。

表６．診療の領域、評価項目の平均評価点

職域・職種 区分		診療領域	各評価項目の平均評点		
		平均評価点数	[1] 院内診療活動	[2] 病院運営	[3] 専門医等資格
医学基礎系科	教授	11.5	8.7	0.4	2.5
	准教授・講師	10.8	7.2	0.0	3.6
	助教	16.7	13.4	0.0	3.4
医学臨床系科	教授	60.2	40.4	4.3	15.5
	准教授・講師	89.9	71.0	4.8	14.2
	助教	90.1	74.3	5.8	9.9
看護学科	教授	4.0	0.6	0.0	3.4
	准教授・講師	0.5	0.0	0.0	0.5
	助教	2.6	0.0	0.0	2.6

3）**診療領域全体の状況**

○ 診療領域に医学科基礎系及び看護学科の教員が数名貢献しているが、診療領域は臨床系の教員により支えられている。そのなかでも、評価点は助教が最も高く、次いで准教授・講師、教授の順になっており、診療と病院運営の両方の活動に准教授・講師、助教が大きく貢献していることが示されている。

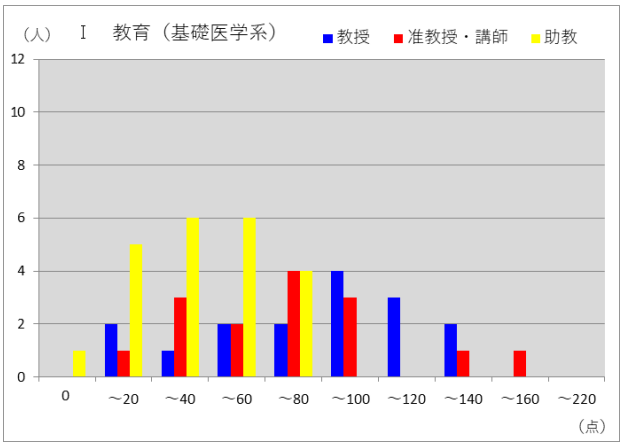
４．教員の総合的活動状況評価の集計･分析

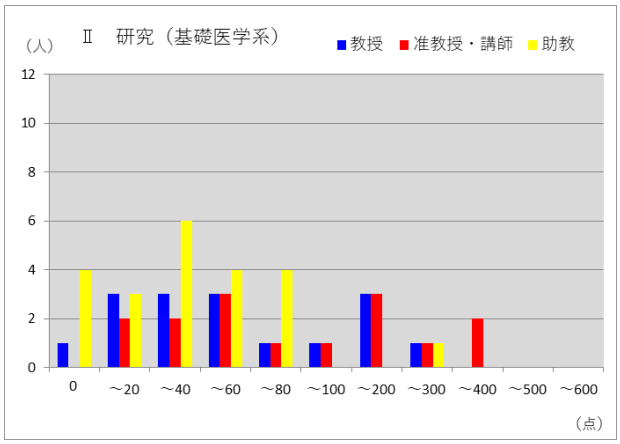
（１）各評価領域における職域・職種別の評価点数分布

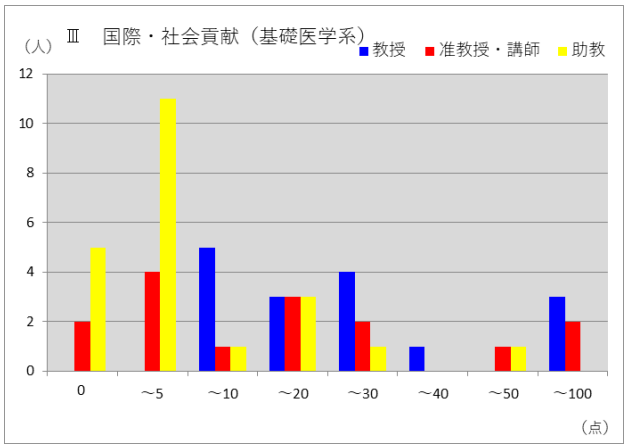
各評価領域の評価点数を横軸に、評価点に該当する教員の数を縦軸にとったグラフで、評価点の分布を職域・職種別（教授は青、准教授・講師は赤、助教・助手は黄色）に示す。

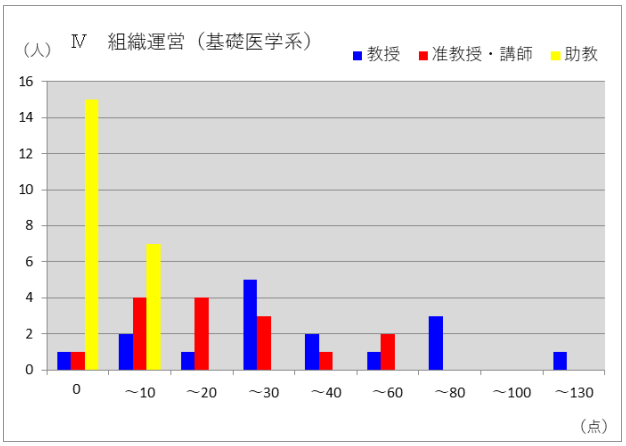
これで見ると、数人の教員が飛びぬけて評価点が高く、これらが平均点を引き上げている。

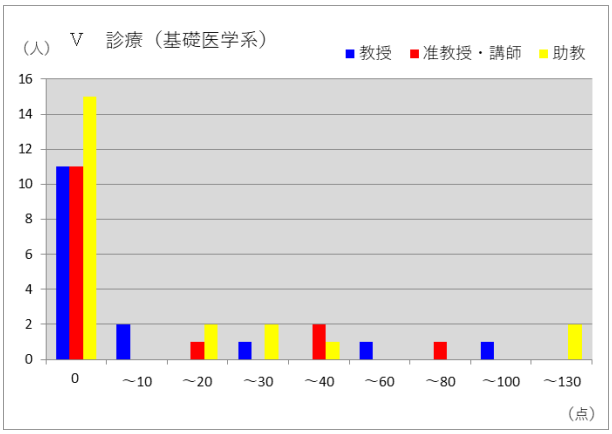
医学科基礎系



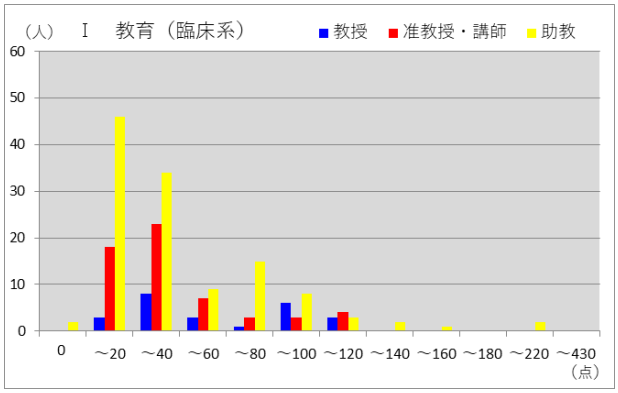


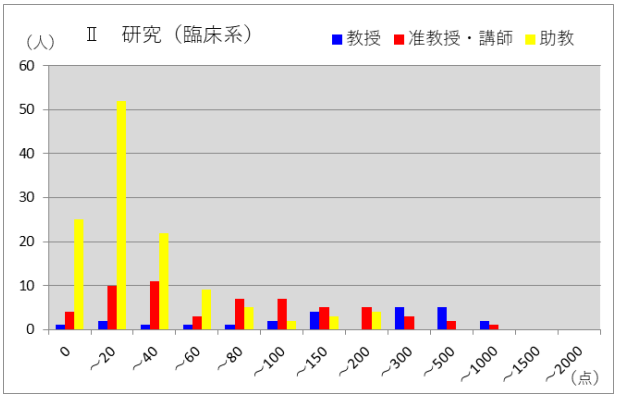


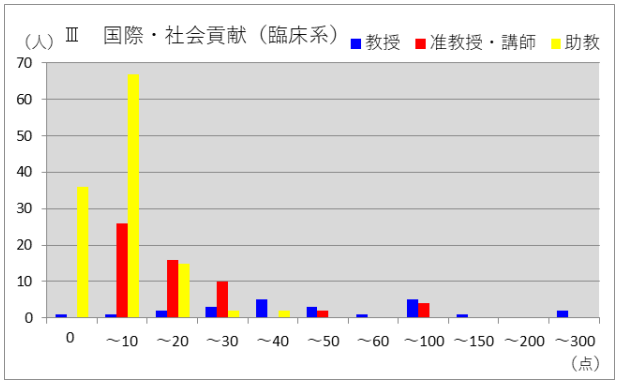


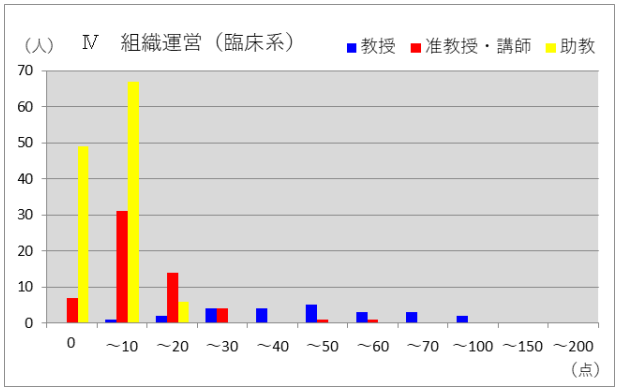


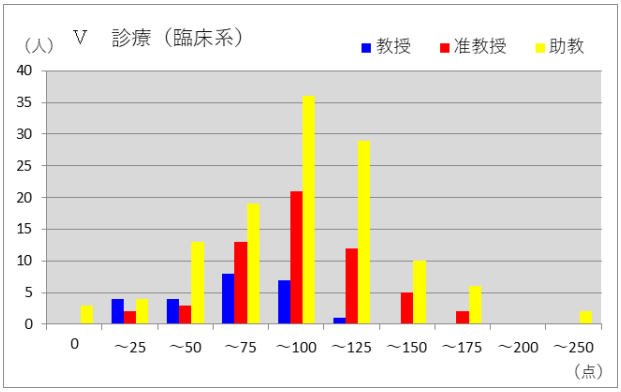
医学科臨床系


（人）
Ⅰ　教育（臨床系）
教授
准教授・講師
助教
60
50
40
30
20
10
0
0
～20
～40
～60
～80
～100
～120
～140
～160
～180
～220
～430
（点）

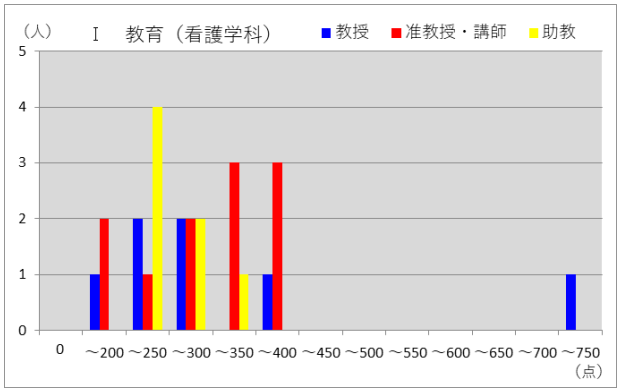

（人）
Ⅱ　研究（臨床系）
教授
准教授・講師
助教
60
50
40
30
20
10
0
0
～20
～40
～60
～80
～100
～150
～200
～300
～500
～1000
～1500
～2000
（点）

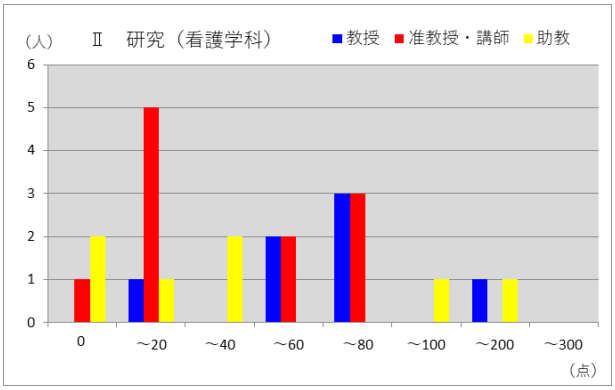

（人）
Ⅲ　国際・社会貢献（臨床系）
教授
准教授・講師
助教
70
60
50
40
30
20
10
0
0
～10
～20
～30
～40
～50
～60
～100
～150
～200
～300
（点）

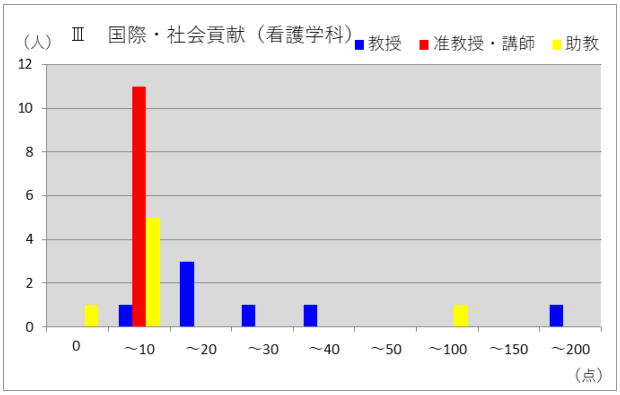

（人）
Ⅳ　組織運営（臨床系）
教授
准教授・講師
助教
70
60
50
40
30
20
10
0
0
～10
～20
～30
～40
～50
～60
～70
～100
～150
～200
（点）

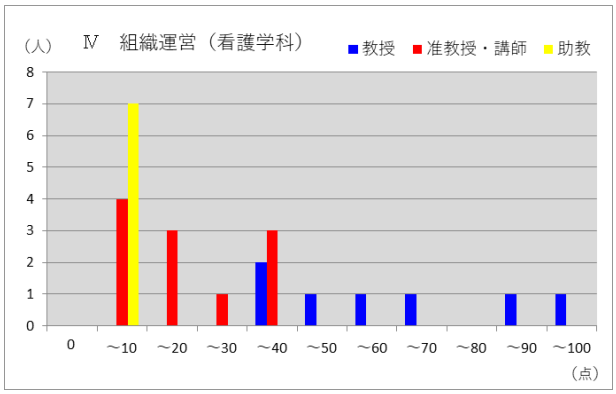

（人）
Ⅴ　診療（臨床系）
教授
准教授
助教
40
35
30
25
20
15
10
5
0
0
～25
～50
～75
～100
～125
～150
～175
～200
～250
（点）

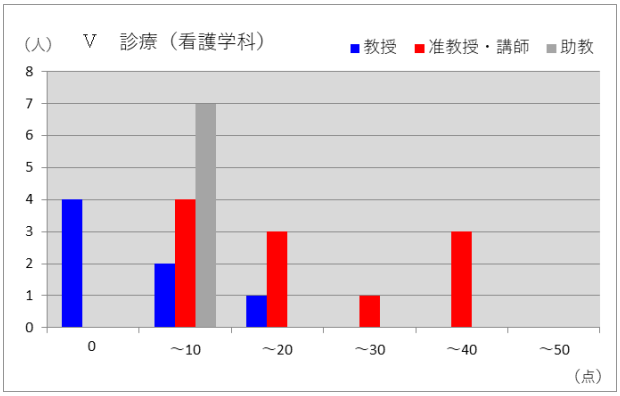
看護学科


（人）
Ⅰ　教育（看護学科）
教授
准教授・講師
助教
0
1
2
3
4
5
0
～200
～250
～300
～350
～400
～450
～500
～550
～600
～650
～700
～750
（点）


（人）
Ⅱ　研究（看護学科）
教授
准教授・講師
助教
0
1
2
3
4
5
6
0
～20
～40
～60
～80
～100
～200
～300
（点）


（人）
Ⅲ　国際・社会貢献（看護学科）
教授
准教授・講師
助教
0
2
4
6
8
10
12
0
～10
～20
～30
～40
～50
～100
～150
～200
（点）

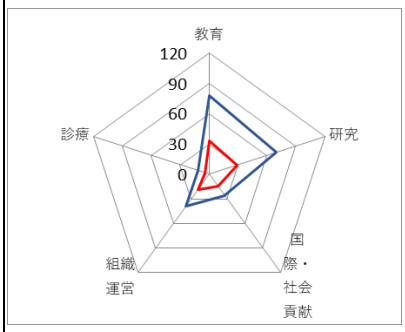
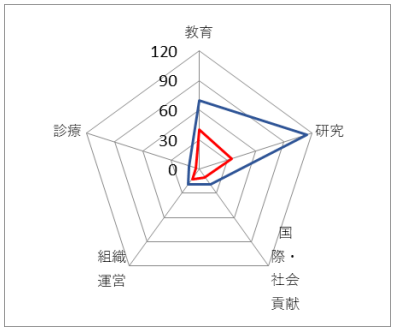
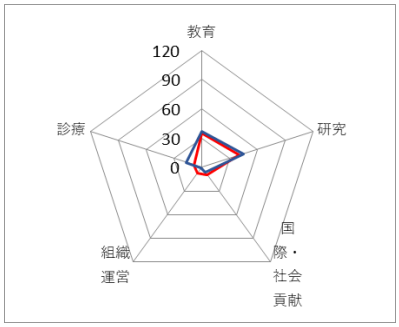

（人）
Ⅳ　組織運営（看護学科）
教授
准教授・講師
助教
0
1
2
3
4
5
6
7
8
0
～10
～20
～30
～40
～50
～60
～70
～80
～90
～100
（点）


（人）
Ⅴ　診療（看護学科）
教授
准教授・講師
助教
0
1
2
3
4
5
6
7
8
0
～10
～20
～30
～40
～50
（点）

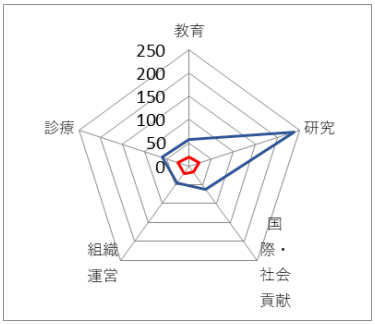
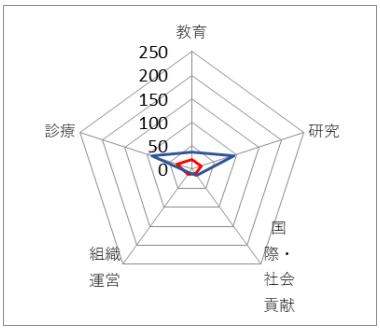
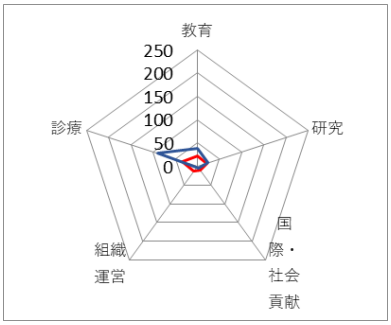
（2）目標とする活動領域の重み配分と評価点との関係

各評価領域の評価平均点（青色）と、予め申告した各領域の重み配分の平均値（赤色、100%を 100 点に換算）を、職域・職種別にレーダーグラフで示す。この場合、両者の点数スケールが異なるので、値は比較にならないが、グラフの形状により活動バランスを比較できる。これで見ると、医学科基礎系では、概ね重み配分と評価点のバランスが取れている。臨床系の教授は研究、臨床系の准教授は診療と研究、臨床系の助教は診療、看護学科では教育において突出している青色の値の領域が重み配分の赤色の値に対して活動の評価点が高く、バランスが取れていないと判断ができる。

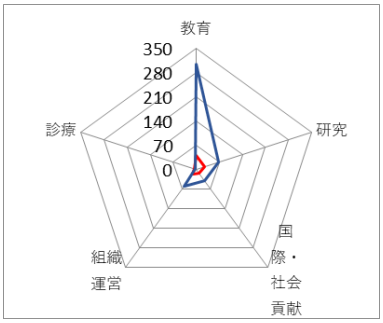
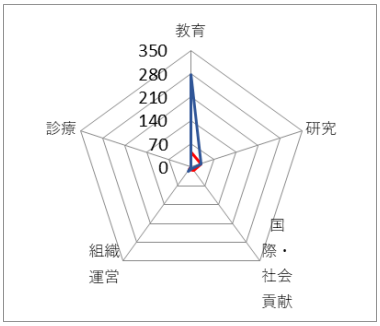
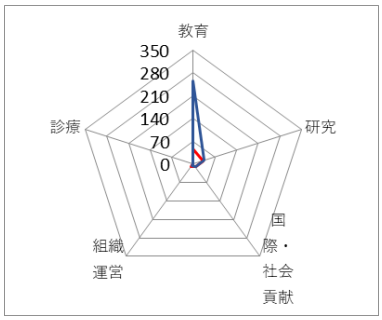
医学科基礎系

教授	准教授・講師	助教
		

医学科臨床系

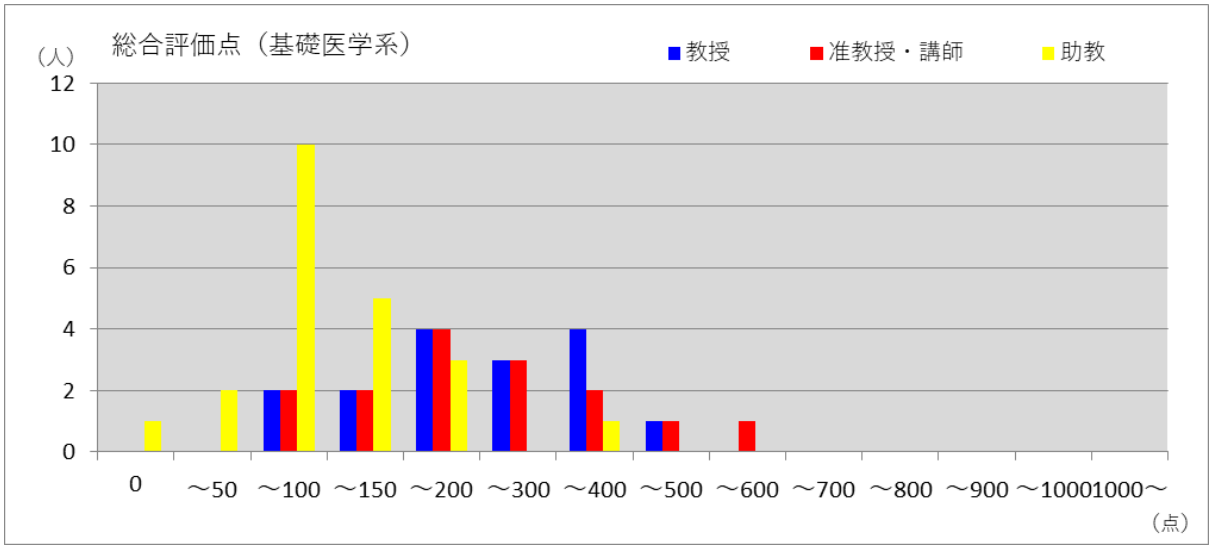
教授	准教授・講師	助教
		

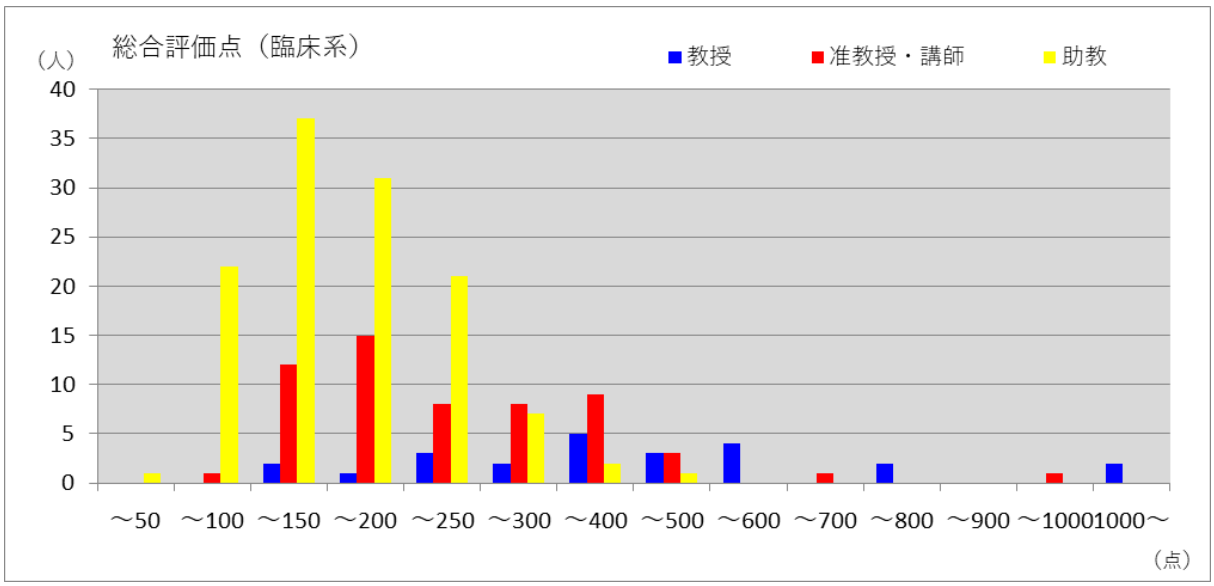
看護学科

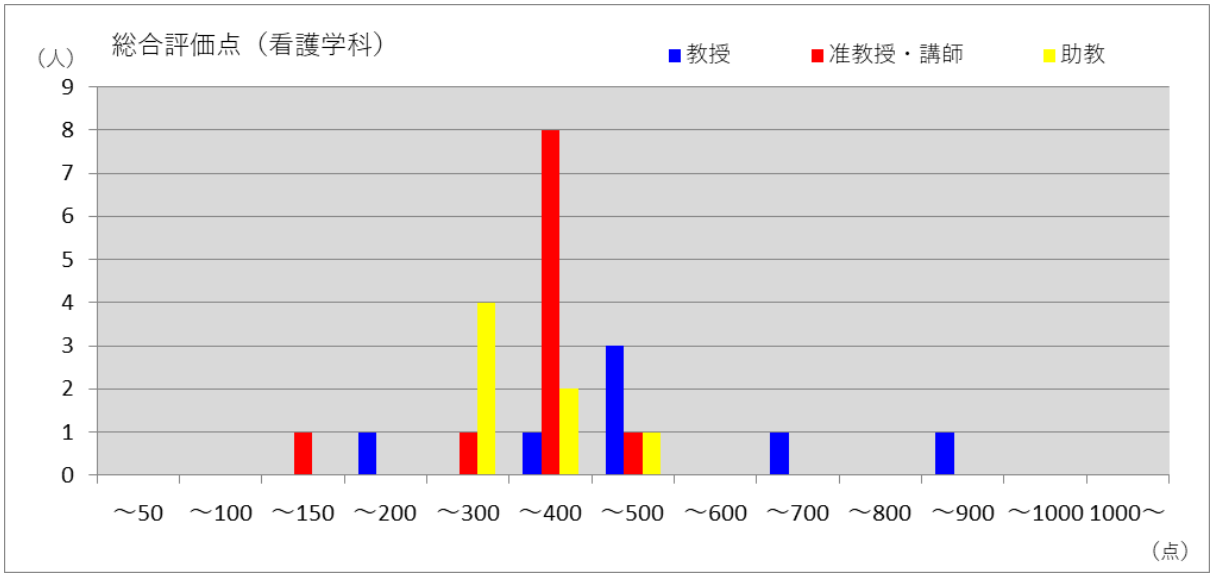
教授	准教授・講師	助教
		

（３）職域・職種別の総合評価点数分布

各評価領域の合計評価点数を横軸に、評価点に該当する教員の数を縦軸にとったグラフで、評価点の分布を職域・職種別（教授は青、准教授・講師は赤、助教・助手は黄色）に示す。







５．各教員の活動目標に関する達成度自己評価の集計

前年度に各教員が設定した活動目標の達成状況について、各自が評価領域ごとに自己点検を行い自己評価した達成率（%）の職域・職種別平均値と、それに重み配分を掛け合わせたものを合計した結果を表７に示す。

達成度に関する自己評価は、評価の辛さ・甘さが個人によって異なるが、全体では 84.3%の活動目標達成率と自己評価していることが示されている。

表７．活動目標に関する達成度自己評価の平均値

職域・職種 区分		目標達成率（%）					重み加算達成度（目標達成率平均×重み配分率平均）					
		教育	研究	国際交流・社会貢献	組織運営	診療	教育	研究	国際交流・社会貢献	組織運営	診療	合計
医学科 基礎系	教授	86.1	84.0	87.4	89.4	23.7	28.8	24.4	12.6	16.7	1.0	83.6
	准教授・講師	94.2	77.7	74.3	94.3	24.7	38.0	26.9	7.2	11.3	0.8	84.2
	助教	88.9	81.1	66.1	67.0	23.2	31.4	32.5	6.2	4.7	1.9	76.7
医学科 臨床系	教授	88.6	81.3	86.4	86.6	89.9	17.4	17.5	13.0	16.6	22.3	86.6
	准教授・講師	86.6	76.8	86.1	83.2	88.9	17.4	16.0	10.7	10.7	30.0	84.9
	助教	82.7	65.7	63.9	77.3	84.8	17.5	13.8	7.1	9.7	29.1	77.1
看護学科	教授	93.6	80.7	94.3	89.3	17.9	36.8	19.6	12.8	16.6	0.9	86.6
	准教授・講師	90.9	84.1	93.2	84.1	0.0	41.7	25.2	11.9	9.6	0.0	88.4
	助教	95.7	85.7	80.0	90.7	0.0	45.8	26.9	8.6	9.1	0.0	90.4

６．教員の個人評価（2024 年度活動実績）まとめ

2024 年度活動実績の個人評価は、2025 年 3 月に各教員の実績及び自己点検報告書の提出を求めて実施した。

今回の実施結果では、次のような問題点が認められた。

（１）実施上の問題事例

・３月中旬依頼、４月中旬提出締切としていたが、期限を守らない教員がいた。

（２）報告書記載内容の問題事例

・記載漏れ（ID、重み配分等）、記載内容の不備等。

〇業務改善に向けて

集計作業の負担軽減のため、業務の一部に RPA（Robotic Process Automation）を導入し、集計作業の負担軽減を図っている。VBA（Visual Basic for Applications）を活用し、業務改善に努めていく。